

第 17 回日本在宅医学会もりおか大会 一般・指定演題

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	在宅 ALS 患者への訪問リハで経験されたトラブルについて
演者名	○平林大輔、中田隆文
所属	医療法人杉の子会 須藤内科クリニック リハビリテーション科

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		5

【はじめに】筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 患者は病態及び疾患の進行により多様な障害を引き起こす。当院では在宅 ALS 患者への訪問リハビリテーション (訪問リハ) を実施しているが、訪問時にトラブルに遭遇する事も少なくない。

【報告の目的】訪問リハ時に経験されたトラブルについて調査し、遭遇しやすいトラブルは何か、求められる対応は何か、トラブル発生時の訪問リハの役割とその可能性を明らかにする事。

【対象・方法】平成 16 年 4 月～平成 26 年 5 月までの 10 年間に、当院訪問リハを利用した ALS 患者 48 例 (男性 30 例、女性 18 例) を対象に訪問時のトラブルをカルテより後方視的に調査した。調査期間に実施された呼吸療法は TPPV25 例、NPPV10 例、吸引器 30 例、排痰補助装置 13 例、HOT5 例で、複数使用する例もあった。

【結果】トラブル総数 118 件中、呼吸に関するトラブルは 80 件 (68%)、うち喀痰喀出困難 39 件 (49%)、在宅医療機器関連 38 件 (48%)、鼻閉、呼吸困難、迷走神経反射各 1 件 (各 1%)。その他、熱発 17 件 (14%)、消化器症状 7 件 (6%)、転倒 5 件 (4%)、皮膚トラブル 3 件 (3%)、骨折疑い、排泄トラブル各 2 件 (各 2%)、脳血管障害急性発症、心肺停止状態各 1 件 (各 1%)。東日本大震災発生時以外に救急搬送例はなかった。

【考察】気道管理に関係するトラブルが多かった。今回の対象者には TPPV 例もあり、ALS 患者の生命維持に呼吸管理は大きな問題であるが、呼吸リハによる排痰は有効であった。その他のトラブルに対しても訪問したセラピストが状況を判断し、気道確保、主治医や医療機器業者への連絡、回路交換、訪問看護への連絡などの対応を取っていた。ALS では症状の進行により生じるリスクの評価とケアにより、事前にトラブルを回避できる可能性がある。ALS 患者への訪問リハでは緊急対応が必要な場合があり、特に気道確保の知識と技術、在宅医療機器のトラブルシューティング、地域医療連携は必須である。